



2024年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年6月13日

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社 上場取引所 東
コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 上原 祐香 TEL 03-3502-2020
コーポレートコミュニケーション本部長
四半期報告書提出予定日 2024年6月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第3四半期の連結業績（2023年8月1日～2024年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第3四半期	15,439	△25.1	3	△92.4	44	1.3	△1,450	-
2023年7月期第3四半期	20,609	△20.4	42	△97.8	43	△98.0	△153	-

(注) 包括利益 2024年7月期第3四半期 △1,452百万円 (-%) 2023年7月期第3四半期 △165百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第3四半期	△166.37	-
2023年7月期第3四半期	△17.58	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第3四半期	11,169	6,156	55.1
2023年7月期	12,135	7,609	62.7

(参考) 自己資本 2024年7月期第3四半期 6,156百万円 2023年7月期 7,609百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年7月期	-	0.00	-	-	-
2024年7月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年7月期の連結業績予想（2023年8月1日～2024年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△24.2	△1,000	—	△1,000	—	△2,500	—	△286.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年7月期3Q	8,720,534株	2023年7月期	8,720,534株
② 期末自己株式数	2024年7月期3Q	155株	2023年7月期	155株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年7月期3Q	8,720,379株	2023年7月期3Q	8,720,379株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更について）

当社の連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当連結会計年度より百万円単位で記載することに変更しております。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、一部に足踏みもみられるものの、緩やかな回復が続きました。景気の回復を背景に個人消費にも持ち直しの動きがみられましたが、物価の上昇により消費者マインドは停滞する状況がみられました。国内化粧品市場においては、外出機会の増加により個人消費が回復し、円安によるインバウンド需要の増加もみられました。一方で、コロナ禍を機に国内化粧品市場の2極化が鮮明となっており、低価格帯市場の拡大傾向が続いています。

こうした状況の下、当社グループは、厳しい事業環境下においても着実に利益を創出できる筋肉質な企業体質の確立に向け、通販事業の立て直し、ブランドマネジメント及びコスト構造の改善等の施策に取り組んでいます。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、子会社のベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が伸長したものの、当社で行っているアンチエイジング事業の売上が減収となり、全体では15,439百万円（前年同期比25.1%減）となりました。営業利益は、アンチエイジング事業の減収により売上総利益が減少したものの、リカバリー事業の利益の伸長に加え、通販市場での広告コストの高止まりや、獲得効率・転換率を重視した新規獲得方針に基づき広告投資をコントロールしたことから、3百万円（前年同期比92.4%減）、経常利益は円安による為替差益の増加により44百万円（前年同期比1.3%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、第2四半期連結会計期間において、ソフトウェア資産に係る減損損失及び契約損失並びに契約損失引当金繰入額を特別損失として計上したこと、及び繰延税金資産を取り崩し法人税等に計上したことから1,450百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失153百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

(単位：百万円)

	2023年7月期 第3四半期連結累計期間	2024年7月期 第3四半期連結累計期間	前年同期比 (%)
売上高	20,303	14,102	△30.5
営業利益又は営業損失(△)	56	△166	—

売上高

アンチエイジング事業の売上高は、14,102百万円（前年同期比30.5%減）となりました。

「デュオ」ブランドでは、「ザ クレンジングバーム」が5年連続クレンジング売上No. 1(*1)を獲得し、シリーズ累計の出荷個数が2024年2月末に5,000万個を突破しました。しかしながら、市場全体でバーム剤型からオイル剤型へのシフトが継続するとともに、低価格バーム商品との競争が激化していることから、売上高は通信販売・卸売販売ともに減少しました。このような状況を打開するため、新たなテレビCMや美容家・インフルエンサーによるイベント、SNS等を通じて、ブランド価値、商品価値の理解を促進するコミュニケーションを強化するとともに、継続率向上施策やロイヤル顧客の継続促進に注力していますが、これらの施策は十分な効果が得られるまでに一定の期間を要するため、現時点においてはまだ効果は限定的です。

「カナデル」ブランドでは、オイル級のメイク落ちを叶える「カナデル クレンジングウォーター」及び瞬時に潤う「カナデル ジュレローション [医薬部外品]」を2024年3月から新たに投入し、ブランドのラインナップを拡充しました。しかしながら、オールインワン市場の厳しい競争環境が続くとともに、広告オークションの競争激化により新規獲得が計画を下回り、売上高は前年同期実績を下回っています。

「クレイエンス」ブランドは、カラートリートメントの競争激化や広告コストの高止まりの影響を受けたものの、売上高は徐々に拡大し計画通りの販売が続いています。昨年度投入した、しっかり染色できる医薬部外品の泡状白髪カラー「クレイスパクイックカラー」も、テストマーケティングで販売を伸ばしています。この結果、四半期毎の売上高は増収傾向が続いています。

この他、昨年度新たに投入したインナーケア事業のサプリメント「シントー」は、インフルエンサー施策の強化により新規獲得件数が拡大、高濃度ビタミンCブランド「シーマニア」は配荷店舗数が6,300店舗に拡大するなど、いずれもテストマーケティングで好調を維持していますが、主力ブランドの売上高の減少を補うには至っておりません。

営業損益

損益面では、通販市場での広告コストの高止まりを背景に新規獲得の広告投資をコントロールしたものの、減収により売上総利益が減少したことから、営業損失は166百万円（前年同期は営業利益56百万円）となりました。

リカバリー事業

(単位：百万円)

	2023年7月期 第3四半期連結累計期間	2024年7月期 第3四半期連結累計期間	前年同期比*2 (%)
売上高	306	1,337	—
営業利益又は営業損失(△)	△13	163	—

売上高

売上高は、継続的に行っているサプライチェーン・マネジメントの強化及び新たな販売チャネルの開拓においてグループシナジーが発揮されたことから、第3四半期における過去最高収益を更新し1,337百万円となりました。2024年3月から新ブランドアンバサダーにイモトアヤコさんを起用し、ブランド認知に向けた広告投資を強化したことから、自社サイトへのアクセス数も大幅に増加しています。

営業利益

売上高の伸長により、営業利益も第3四半期における過去最高を更新し163百万円となりました。

*1 TPC マーケティングリサーチ(株)調べによるブランド別クレンジングに関する調査
(調査対象期間：2019年4月～2024年3月／調査時期：2024年4月)

*2 リカバリー事業の売上高及び営業利益の増減率については、リカバリー事業が前連結会計年度の第3四半期連結会計期間より開始したことから記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して966百万円減少し、11,169百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して271百万円減少し、8,958百万円となりました。これは主に、売掛金の減少427百万円、流動資産「その他」に含まれる未収還付法人税等の増加163百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して694百万円減少し、2,210百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加550百万円、無形固定資産「その他」に含まれるソフトウェア仮勘定の減少465百万円及び投資その他の資産に含まれる繰延税金資産の減少517百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して486百万円増加し、5,012百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、750百万円増加し、3,766百万円となりました。これは主に、買掛金の増加171百万円、短期借入金の増加407百万円及び1年内返済予定の長期借入金の増加155百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、263百万円減少し、1,245百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少313百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して1,452百万円減少し、6,156百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失1,450百万円によるものであります。

その結果、自己資本比率は55.1%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年7月期の連結業績予想につきましては、2024年3月14日付「2024年7月期第2四半期連結業績予想と実績値の差異、特別損失（減損損失等）の計上及び繰延税金資産の取り崩し並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表した通期の業績予想から変更はありません。業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに開示する予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,670	4,482
売掛金	2,080	1,652
製品	1,464	1,363
原材料及び貯蔵品	444	591
その他	568	868
流動資産合計	9,229	8,958
固定資産		
有形固定資産	77	628
無形固定資産		
のれん	394	362
その他	1,117	693
無形固定資産合計	1,511	1,055
投資その他の資産	1,316	526
固定資産合計	2,905	2,210
資産合計	12,135	11,169
負債の部		
流動負債		
買掛金	258	430
短期借入金	568	975
1年内返済予定の長期借入金	230	385
1年内償還予定の社債	26	26
未払金	1,171	954
未払法人税等	22	35
賞与引当金	53	46
契約損失引当金	-	144
その他	685	768
流動負債合計	3,016	3,766
固定負債		
社債	70	50
長期借入金	1,366	1,053
契約損失引当金	-	106
資産除去債務	38	6
その他	34	29
固定負債合計	1,509	1,245
負債合計	4,525	5,012
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,351	1,351
資本剰余金	1,351	1,351
利益剰余金	4,888	3,437
自己株式	△1	△1
株主資本合計	7,590	6,139
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	19	17
その他の包括利益累計額合計	19	17
純資産合計	7,609	6,156
負債純資産合計	12,135	11,169

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)
売上高	20,609	15,439
売上原価	4,924	3,083
売上総利益	15,684	12,356
販売費及び一般管理費	15,642	12,353
営業利益	42	3
営業外収益		
受取利息	1	1
為替差益	—	53
受取手数料	5	—
雑収入	15	8
営業外収益合計	22	63
営業外費用		
支払利息	12	16
為替差損	7	—
雑損失	0	5
営業外費用合計	21	22
経常利益	43	44
特別損失		
減損損失	—	492
契約損失	—	147
契約損失引当金繰入額	—	250
その他	—	18
特別損失合計	—	908
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	43	△864
法人税等	196	585
四半期純損失(△)	△153	△1,450
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△153	△1,450

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)
四半期純損失(△)	△153	△1,450
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△11	△2
その他の包括利益合計	△11	△2
四半期包括利益	△165	△1,452
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△165	△1,452

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、当社を存続会社、当社の完全子会社であったプレミア・ウェルネスサイエンス株式会社を消滅会社とする吸収合併を行ったため、プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社を連結の範囲から除外しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものを一定の基準に従い集約したものとしています。

当社は、業績の評価等を主として連結子会社別に行っているため、これを事業セグメントの識別単位とし、このうち各事業セグメントの経済的特徴、製品及びサービスを販売する市場又は顧客の種類等において類似性が認められるものについて集約を実施し、報告セグメントを決定しています。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

各セグメントで扱っている主な製品、サービスは以下のとおりです。

・アンチエイジング事業

主にスキンケア、ヘアケア、インナーケア製品の製造・販売を行い、DUO、カナデル、クレイエンスといったブランドが含まれております。

・リカバリー事業

主に株式会社ベネクスを通じたリカバリーウェア等の製造・販売を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年8月1日 至 2023年4月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額
	アンチエイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,303	306	20,609	—	20,609
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	20,303	306	20,609	—	20,609
セグメント利益又は損失(△)	56	△13	42	—	42

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年8月1日 至 2024年4月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	アンチエイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,102	1,337	15,439	—	15,439
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,102	1,337	15,439	—	15,439
セグメント利益又は損失(△)	△166	163	△2	5	3

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額5百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等

従来、当社グループの報告セグメントは「化粧品の製造・販売事業」のみであり、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける「リカバリー事業」の重要性が増したためセグメント情報を開示しております。

また、第1四半期連結会計期間より、従来「化粧品の製造・販売事業」としていた報告セグメントの名称を、「アンチエイジング事業」へ変更しています。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「アンチエイジング事業」セグメントにおいて、一部のソフトウェア仮勘定の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は492百万円です。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。